

セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE WINTER

ルカ新聞

No.33
2018.12.

グランドキャニオンの虹 2018. 10. 6

柘さ
榴くろ

主は、とこしえにいます神、地の果てに及ぶすべてのものの造り主。その英知は究めがたい。疲れた者に力を与え、勢いを失っている者に大きな力を与えられる。主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って羽ばたき昇る。

イザヤ書40章28節—31節

イザヤの昔から、人間はなんと同じ悩みを抱え、苦しみ、また喜び、感謝してきたことでしょう。いかに科学、文明が発達しても文化としての人間精神の動きに関する進歩は満る運命にあるのでしょうか。この工程を熟慮、沈黙黙考に陥つてもがいてみても、ひとはその答えを見出せないことが多くあります。多くの芸術、文学作品にそれは見られます。国内の事件、世界の紛争などの報道に接するたびにそれを感じます。

中国で受精卵に遺伝子操作を行って新しい子どもを作ったとした発表がありました。また、欧米では血液疾患の子どものために骨髄移植に適合した子どもを「作って」います。人間から見ればもう生殖医療は倫理学を超えて哲学の領域に入っているかもしれません。遺伝子ひとつ学んでみても主の御業の途方もない大きさに驚かされます。私たちは「被造物」です。謙虚に神から与えられた知恵と技術を用いなければなりません。この立ち位置に返ってこそ神は大きな力を与えてくださいます。それは、ノアが箱舟で40日間彷徨って新しい天地に辿り着いた時、神がしてくださった約束です。そして、神は地上の人間との間に建てた祝福の契約のしるしとして「虹」を置かれました。

神は人間のなす技の多少にかかわらずこの約束を果たしてください。それを心から信じて神に望みを託せば新たな力を与えてくださり、大きな羽ばたきがひびきます。



巻頭言

院長 宇津宮 隆史

この一年は、我々が長い間取り組んできたテーマがいよいよ最終局面に入ってきたことを感じる年であった。それは、医療側も患者側も安心できる生殖医療の小さな一歩であり、さらに次の段階に進むためのステップである。

その一つはART（生殖補助医療：体外受精、顕微授精）における培養環境の整備として、新しい胚培養液が完成したことである。13年前に発足した日本卵子学会（当時：日本哺乳動物卵子学会）の培地開発委員会（当初、私が副委員長、その後委員長）が主体となって、世界で初めてヒト卵管内液を採取し、分析し、それに基づいて設計された胚培養液が、昨年より扶桑薬品工業株式会社から販売された。現在、広く市場に出回っている。当院でもこの1年間、RCT（前方視的無作為比較試験）を組んで胚盤胞率の比較を毎週行っているが、常に10%前後良好な結果を出している。この結果は、今年の7月にバルセロナで開催されたヨーロッパ生殖医学会（ESHRE）や10月にデンバーで開催されたアメリカ生殖医学会（ASRM）などで発表しており、すでにアメリカから問い合わせが来ている。現在、当院が全国の成績を集計しており、次の1年間で多くの施設からも同様の結果報告が出てくると思われる。

次に、胚盤胞まで発育しても、ヒト胚では35歳以下の若いグループで50%、それ以上の高齢者では70%が染色体異常であることに関して、PGT-A（着床前胚遺伝学的検査—染色体数的異常）の効果を見るために、日本産科婦人科学会主導でパイロット研究が東京、大阪のクリニックと当院の3カ所に依頼・遂行され、この夏に終了した。衝撃的な結果であった。まず、今まで顕微鏡下での観察で、移植すれば十分妊娠可能であろうと判定されていた良好胚盤胞でも、アレイCGHによる検査を行うと、半分以上が異数性を示し、胚移植可能胚は30%ほどしかないことが分かった。そして、それらの胚を移植すれば妊娠率は70%を超えることもわかった。これは、全国40万組の不妊治療を行っている患者さんにとって、明るい指針になると言えよう。この方法は、倫理問題があるため我が国では慎重に慎重を重ねて検討されてきたが、これらの結果から、来年からは広く行われるようになるであろう。

また、それによって流産しない、高い妊娠率を持つ胚を選んで移植できるということは、公的助成金の有効利用につながる。当院の計算でも、現在、助成金の2/3は妊娠していない周期に交付されている。PGT-Aが実用化されると、妊娠でき、赤ちゃんが生まれうる周期に集中して効果的に助成金が交付されることになる。これは今、採卵さえすれば助成金がもらえるという制度の盲点について、治療周期あたりの妊娠率4%という自然周期法や低刺激周期法でも公的資金が交付されていることにもくさびを入れることになる。

なぜなら、PGTでは、検査できる胚を数個以上集めねばならないため、調節刺激周期がはるかに有利であるからである。

JISART（日本生殖補助医療標準化機関）は大きな転換期を迎えている。15年前に日本のART約600施設のうち14施設が集まって日本のARTのレベル向上を目指して発足したグループであるが、今では参加施設は30を数え、その構成メンバーもかなり若返っている。今、JISARTは行動を起こさねばならない。まず、今後のARTの在り方をしっかりと示すこと、そして、JISARTでなければできないことをすること、さらに実際的にはJISARTがこの日本のARTをリードしていることを自覚することである。

今は設立当時とは環境が全く変わっており、ART施設の設計、スタッフ教育、ART方法、薬剤の選択など、すべてが進化・変化している。当時は全員が試行錯誤を繰り返し、良いアイデアを持ち寄って一歩でも先を行くARTを夢見てきたが、今では基本はほとんど完成されているとあってよい。公的助成金を食い物にした自然周期法というマニュアル中心のARTが可能なクリニックが乱立できるのもそれを実証している。この“自然周期法”“低刺激周期法”という言葉は“からだにやさしい”“かんたんにできる”“妊娠率は30%”などと耳触りは良いが、妊娠率は胚移植あたりを示し、治療開始あたりで計算すると妊娠率は4%である。「会社帰りに無麻酔で採卵」し、「会社帰りに胚移植する」と謳っているが、本当は4%が実態である。これについては、私が田中温先生とJISARTの執行部を担っていた時に、JISART全体で1年間のRCTを組んで自然周期法と我々の調節刺激周期法の比較を行い、我々の方法の優位性を実証している。これをさらに追加し、強力に世の中に開示しなければならない。その方法を見つけ、全国の生殖医療を行っている医療者と患者さんに注意喚起することも重要と思う。

2007年から我々 JISART は卵子提供での ART に取り掛かった。卵子提供は、日本産科婦人科学会のガイドラインでは禁止となっていたが、患者さんの中にはどうしてもこの方法でなければ赤ちゃんが望めない、重症不妊があり、生まれてくる子どもにとっては、その出自を知る権利も必須である、という結論で、両方の条件を併記して理事会で全員賛成となった。この時は某クリニックの事件もあり、我々も日産婦から除名処分を受ける心配があったが、それも覚悟したうえで、卵子提供の採決に全員反対はしなかった。その後、これに関しては大きな変動もなく、粛々と進められ、今では40名以上の子どもがこの世に生を受けている。

この成果は、当時から JISART の倫理委員長を務め、指導してくださった金城清子先生のお力が本当に大きかったと思う。先日、この方法でお子さんを授かった方々の会にオブザーバーとして参加してきたが、皆さん本当に喜んでおられ、良かったと思う。しかし、出自を知る権利、告知の方法について、一部の方にはまだ困難な面を抱えておられることもあり、今後も JISART が末永くサポートしなければならない。そのために JISART のフォローアップ部会があり、それを当初から引っ張っているのは上野桂子先生である。少なくとも20年はかかる仕事と思ってよい。JISART では80年と謳っている。このように、我々の行っている治療はひとの2-3世代を左右する仕事である。

厚生労働省・AMED の ART で生まれた児の長期予後調査では、我々 JISART が3,000人の子どもをフォローしている。それも今年は8歳時点での調査となった。世界でも例のない調査研究である。調査の主体は大学であるが、それを実際に遂行し、データを収集しているのは JISART であり、当院が中心となって実務を行っている。定期的に3,000人分の調査票を協力施設へ配布、回収し、整理した後に本部へ送っている。(実は2006年に日本受精着床学会が日本で初めて ART で生まれた5歳児の健康調査を行った際も、当院が学会の依頼を受けて全国調査を行い、ART で生まれた805人の子どもたちの健康度は自然妊娠児と違いはないことを証明した。)これらは大変な作業で(当院情報処理室、ご苦労様!!)あるが、この成果は世界に例を見ないほどの長期間にわたった、ART で生まれた児の健康度の推移を評価するという価値の高い研究に実を結ぶと思う。

また、PGT-A のパイロット研究も JISART が主体的に取り組み、日産婦にデータを提供している。これらの大掛かりな ART に関する調査は我々 JISART でしか行えないし、それらに関する具体的な提案も我々であるから可能である。このような強みを持っているのが JISART であるということを見出し、JISART の将来、果ては我が国の生殖医療の未来を見据えなければならないと思う。

個人的な出来事であるが、このたび、臨床遺伝専門医になることができた。数年前、田中温先生に勧められ、第31回日本受精着床学会総会・学術講演会の会長(別府・ビーコンプラザ)を務めたときから勉強を始め、5年かかった。これで PGT に限らず、遺伝性疾患全般に関するすべての局面に正面から向かうことができるようになった。

受験勉強をしてみて、我々はこの「遺伝」に関しては本当に意識が向いていなかったことに気が付いた。生殖医療はこの面からも大きな役割を期待されている。特にがん・生殖医療という枠に限らず、遺伝疾患、重症疾患を抱えた患者さんの育児希望に対しては、我々生殖医療専門者が ART 技術に加え、遺伝医療の知識を持って対応することが求められている。それはコンピューターの進化に伴い、遺伝関連機器の高性能化が著しく、また、iPS 細胞医療やがん・ゲノム医療にみられるように、それが今や一般診療・治療にも及んできたと言える。医療者にとって必須の項目である。

平和園はますます平和である。と言えれば本当に楽であるが、昨今の世情にもれず、ますます忙しく、困難な仕事が増加してきていることを肌で感じている。そういう実態の中で、保育士の皆さんは本当に頭の下がる活躍を見せてくれている。

私は4年前に平和園の保育士さんたちと「平和園山岳部」を結成し、今年は雪山やミヤマキリシマの久住山、そして晩秋の大船山に行ってきた。皆、楽しい1日であるが厳しい面も経験したと思う。そのうち、彼らが平和園の子どもたちを連れて行ってくれるようになることを夢見ている。

里親制度の推進により、大分県は全国で10番目に里親養育が充実している。平和園は40名前後の子どもたちが暮らしており、小規模、グループ・ホームに関してはその先駆けとなる歴史を持っているが、それにも様々な問題点が出てきている。大分県や別府市の指導もあり、近藤邦子園長の采配と熱心な保育士らの働きにより、平和園は最も信頼されている施設と言えるが、制度の変遷に伴って環境が変化していることは否めない。今後は、平和園もそれらを見据えた将来計画が求められるようになる。

今後も皆様のご指導、ご支援をお願いしたい。

セント・ルカ産婦人科 アルバム

セミナー・学会 編

第1回 がん・生殖医療フォーラム大分 2018年6月1日

全労済ソレイユ7F アイリス

開会の言葉

上尾 裕昭 先生(うえお乳腺外科 院長)
宇津宮 隆史 先生(セント・ルカ産婦人科 院長)

パート1:「生殖医療、大分県では今」

座長: 佐藤 昌司 先生
(大分県立病院 副院長 産科 部長)
武内 秀也 先生
(大分大学医学部 呼吸器・乳腺外科
診療准教授)

- ①「おおいた乳がん生殖医療ネットワーク」の歩み
久保田 陽子 先生(うえお乳腺外科 外来医長)
- ②生殖医療で出産に成功した若年者乳癌の1例
増野 浩二郎 先生(大分県立病院 外科 副部長)
- ③生殖医療で将来の妊娠に備えた
悪性リンパ腫の若年女性の1例
佐分利 能生 先生(大分県立病院 血液内科 部長)
- ④青壮年期に好発する精巣腫瘍と生殖医療
秦 聡孝 先生(大分大学医学部 腎泌尿器外科
准教授)
- ⑤がん・生殖医療の心理的サポート
～心理職の視点から～
上野 桂子 先生(大分県不妊専門相談センター
生殖心理相談員)
- ⑥がん患者の妊孕性温存の歴史と
生殖補助医療(ART)の実際
宇津宮 隆史 先生(セント・ルカ産婦人科 院長)

パート2: パネルディスカッション

「がん・生殖医療の課題と展望」

座長: 宇津宮 隆史 先生(セント・ルカ産婦人科 院長)
上尾 裕昭 先生(うえお乳腺外科 院長)



【パネリスト(順不同)】

消化管外科: 赤木 智徳 先生(大分大学医学部
消化器・小児外科 助教)
肝胆膵外科: 矢田 一宏 先生(大分県立病院
外科 副部長)
呼吸器外科: 宮脇 美千代 先生(大分大学医学部
呼吸器・乳腺外科 病棟医長)
乳 腺 外 科: 増野 浩二郎 先生(大分県立病院
外科 副部長)
久保田 陽子 先生(うえお乳腺外科
外来医長)
腎泌尿器科: 秦 聡孝 先生(大分大学医学部
腎泌尿器外科 准教授)
整 形 外 科: 田仲 和宏 先生(大分大学医学部
整形外科・人工関節学 准教授)
脳 外 科: 藤木 稔 先生(大分大学医学部
脳神経外科 教授)
血 液 内 科: 佐分利 能生 先生(大分県立病院
血液内科 部長)
小 児 科: 平野 直樹 先生(大分大学医学部
小児科 助教)

閉会の言葉

藤内 修二 先生(大分県福祉保健部参事監
兼 健康づくり支援課長)



第25回セント・ルカセミナー

2018年6月10日

全労済ソレイユ7F アイリス



- ① 吉村 恭典 先生
 (内閣官房参与/慶應義塾大学名誉教授)
 「今、改めて出生前診断を考える」
 座長：宮川 勇生 先生

- ② 苛原 稔 先生
 (徳島大学大学院医歯学薬学研究部
 産婦人科学分野教授)
 「生殖医療の課題と日本産科婦人科学会の取り組み」
 座長：楢原 久司 先生

- ランチョンセミナー1
 田中 温 先生(セントマザー産婦人科医院 院長)
 「PGD普及のためには何が必要か」
 座長：竹内 一浩 先生

- ランチョンセミナー2
 竹内 一浩 先生(竹内レディースクリニック 院長)
 「PGTの歴史、現状、課題について」
 座長：田中 温 先生

- ③ 金城 清子 先生(元龍谷大学法科大学院 教授)
 「PGT-Aをめぐる倫理
 …JISART倫理委員の経験を踏まえて」
 座長：吉村 恭典 先生

- ④ 倉橋 浩樹 先生(藤田医科大学総合医科学研究所
 分子遺伝学研究部門教授)
 「解析施設からみたPGT-Aの問題点と近未来展望」
 座長：河野 康志 先生

「総合討論」 司会：斎藤 伸道 先生



後列左から、九州凸版印刷株式会社社長 谷口俊一様、甲斐由布子 先生、伊東裕子 先生、苛原稔 先生、楢原久司 先生、河野康志 先生、竹内一浩 先生、田中温 先生、河邊史子 先生
 前列左から、倉橋浩樹 先生、金城清子 先生、宮川勇生 先生、宇津宮 院長、吉村恭典 先生、吉村陽子 先生、斎藤伸道 先生

PGT-A をテーマに最新の内容で著名な先生方のご講演を拝聴することができました

第6回 性教育セミナー

2018年6月24日

トキハ会館5F カトレアの間

総勢94名、そのうち子ども32名の参加者でした。
大人も子どもたちも皆さん興味深く聴講している様子が覗えました。



「セクシャル・デバイス・ネットワーク ～ネット・スマホのリスク～」

講師：児童養護施設エス・オー・エスこどもの村
佐々木 玄先生
座長：貞永 明美先生（貞永産婦人科院長）



「子どもたちの性と生を豊かに育む ～性教育における 大人の課題と子どもに伝えたい事～」

講師：児童養護施設 迦陵園 中井 良次先生
座長：宮川 勇生先生（大分大学名誉教授）



参加者の感想より

- 一緒に学ぶスタンスは素晴らしいです。
- 楽しく性教育を聞いたのは初めてでした。
- 子どもも真剣に聞いている姿が印象的でした。
- 性教育セミナーだとはずかしがって来れないという男子がいました。
- 大人として知識をしっかりと身につけなければと思いました。
- 学校の授業より面白く楽しかった。
- 自分を大切にすることを意識し知識を蓄えたいと思った。
- スマホで知らないことがわかったし、危ないこともわかった。



前列左から
中井良次先生、院長、佐々木玄先生
後列左から
河邊史子先生、宮川勇生先生、貞永明美先生、甲斐由布子先生

ESHRE 2018 (ヨーロッパ生殖医学会)

2018年7月1日～4日

会場：Barcelona, SPAIN



今年のESHREはバルセロナで行われました。日本卵子学会で13年間の年月を経て開発された卵管内液組成類似培養液 (HiGROW OVIT) の開発について、扶桑薬品工業主任研究員の八尾氏がポスター発表を行いました。

国際学会特有の陽気な雰囲気と、からっとした気候と地中海の海産物をふんだんに使った料理…。どれも刺激的で、楽しい出張となりました。また参加させていただけるよう、研究を頑張りしたいと思います。(Y.K)

ESHRE2018に参加させていただきました。
手術や培養液に関する発表など、ヨーロッパの生殖医療の最先端を学ぶことが出来ました。
学会の他にサグラダ・ファミリアやパリに連れて行っていただき、中でもヴェルサイユ宮殿やルーブル美術館には魅了させられました。(Y.G)



ASRM 2018 (第74回 アメリカ生殖医学会)

2018年10月8日～10日

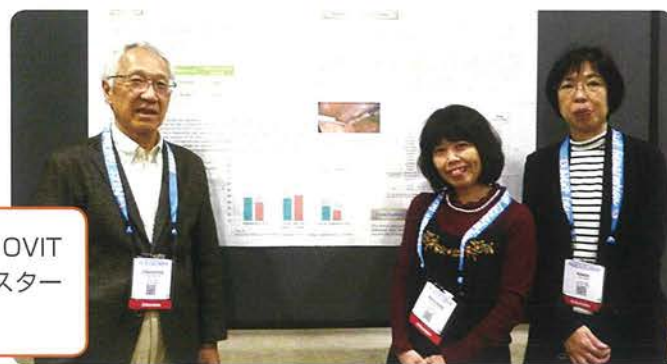
会場：コロラドコンベンションセンター



演題

「The new embryo culture medium based on the amino acid concentration of human oviductal fluid increase the embryo development ability; prospective randomized trial.」

院長が新しい培養液 OVIT の臨床結果についてポスター発表されました。



今年はアメリカのデンバーで開催されました。気温は1℃～3℃でとても寒かったけど、とてもきれいな素敵な街並みでした。又、学会では卵子提供、精子提供などのブース展示が多数行われていて、さすがにアメリカだなと感じ、色々貴重な経験ができました。(N.A, E.M)



研 究 室



培養室 後藤 香里



大分大学大学院医学系研究科医学専攻課程において、産科婦人科学講座 榎原 久司教授の下、河野 康志准教授の指導を受け、医学博士の学位を取得させていただきました。

まず、産科婦人科学講座 榎原 久司教授、指導教官の河野 康志准教授、医局員の皆様にお礼申し上げます。

入学当初は実験の手技は全く分からず、着床についての知識も乏しく、卒業できる日が来るのだろうかと不安に感じていました。榎原 久司教授が率いておられる大分大学医学部産科婦人科学講座はとても温かく、指導教官の河野 康志准教授は着床の基礎から考察、論文作成など、適した時期に適した課題や考察する機会を与えてくださり、社会人入学の私でも学べるよう指導してくださいました。実験の手技に関しては、技術補佐員の方々がとても丁寧に指導してくださったお陰で習得することができました。医局員の先生方や胚培養士の方、事務補佐員の方もお忙しい中、声をかけていただき、困った時に寄り添っていただきました。このような環境で4年間勉強が出来たことによって、研究は楽しい、勉強は楽しいと思うようになりました。人生観が変わった気がします。

大学院では、「子宮内膜間質細胞の脱落膜化は protease-activated receptor-1 を介し細胞内情報伝達系を調節する」という内容について研究しました。着床時期になると、子宮内膜間質細胞は、脱落膜化といい妊娠に必要な細胞の状態へホルモンや成長因子の調節を受け分化します。この分化は妊娠成立時に絨毛の浸潤や胎盤の形成に重要な役割を果たすと考えられています。今回の研究では、脱落膜化した細胞は protease-activated receptor-1 という受容体の発現が増加し、性ホルモンや受精卵の着床によって起こる微量な出血により誘導されるトロンピンがその受容体を活性化させることで、免疫寛容や、血管新生、組織リモデリングや細胞老化抑制などを制御する様々な生理活性物質を産生、調節することが判明しました。これらの働きは、妊娠成立と維持に向けての機能調節の一旦を担っている可能性が示唆されました。

Decidualization modulates a signal transduction system via protease-activated receptor-1 in endometrial stromal cells. Am J Reprod Immunol 2018 Nov ; 80(5)

最後になりましたが、大学院進学を提案して下さり、背中を押してくれた院長、事務長、4年間支えてくれた培養室スタッフをはじめ、皆さまへ感謝を申し上げます。

今後は今まで学んだことを活かして、より多くの患者さんに赤ちゃんが授かるよう、不妊原因の究明、および胚培養士業務に取り組んでいこうと思います。



指導いただいた河野康志先生と

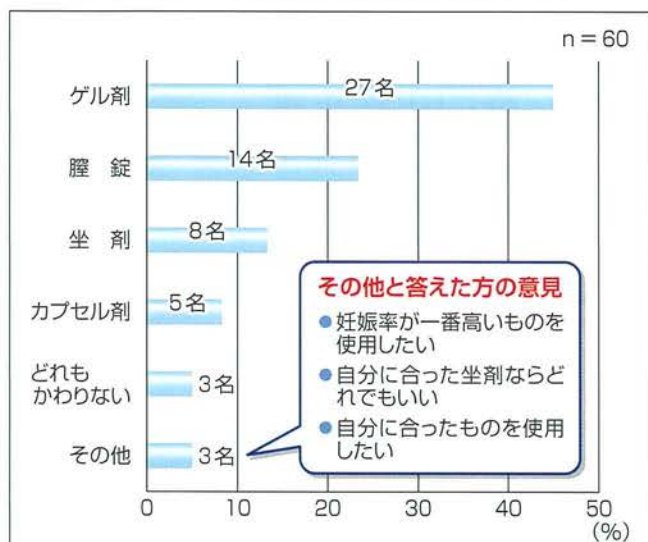
看護部

4種のプロゲステロン膣剤を使用した患者への調査

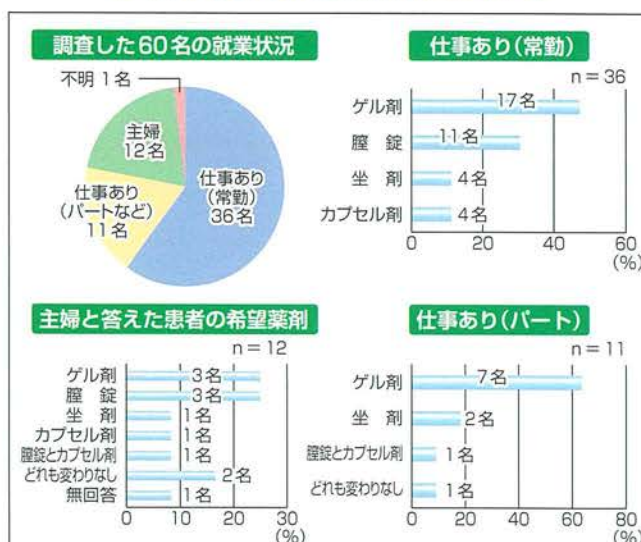
看護部 越光 直子

今回、4種類ある膣坐剤全ての使用経験のある患者さんにアンケートのご協力を頂きました。ご協力頂きましたお礼と共に、アンケート結果の一部をご報告したいと思います。

使用した膣錠の中で どれが一番良いと感じましたか？



就業状況別、 今後の使用希望薬剤について



膣剤に関する感想

良かったと思われる点

- 注射より痛くない。通院回数が少なくなった。
- すぐ溶けるし、すぐ効いている気がして安心感があります。
- 挿入後の安静時間がないのが良かった。
- 簡単に挿入でき、使い方の不安がなく良かったと思う。挿入しやすかった。
- 衛生的で良かった。
- 自力ではホルモンの値が整わないと思うので安心感があります。
- 以前より内膜が厚くなるなど結果に結びついた。

改善を希望する点

- 途中で溶けたりするので、本当に入っているか不安な事があった。
- 体の外に少し流れ出したりするのが、吸収される量に影響がないのかと感じた。
- 外出時の使用でゴミの処理に困ることがあった。
- 投薬回数が減るといいと思う。
- 毎日使っているとかぶれた感じになってきた。
- 毎回おりものシートを使用しなければならない。
- 仕方ないことですが、価格が少し気になります。もう少し低料金になればいい。

今回のアンケート結果では、挿入回数や挿入方法に関して実用的な意見が多く聞かれました。薬剤ごとに使用回数、使用方法、薬剤の形などに特徴があります。患者さん方のライフスタイルを考え、患者さん方が、それぞれの薬剤を抵抗なく使用できるように看護師としてわかりやすい説明を行っていきたいと思います。

～アンケートへのご協力ありがとうございました。～





医 局



医局 甲斐 由布子

宇津宮院長が**臨床遺伝専門医**を取得しました！

当院での治療の中での遺伝医学的問題に対応し、ご自身やご家族の疾患の遺伝に関するご不安、体外受精や顕微授精の遺伝医学的影響に関するご不安に対応します。また不育症や習慣流産、着床前診断に関して、現在の適応、問題点についてご相談に応じます。



※ご相談は月・水・金曜日夕方診療の時間に、院長相談で承ります。詳しくは当院スタッフにお尋ねください。



新 人 紹 介



宮田 美紀 (看護部)

未熟者ですが、少しずつでも頑張ります。よろしくお祈り致します。



吉良 美咲 (看護部)

不妊治療の看護は初めてで知識も浅いので、患者さんと一緒に勉強していきたいと思っております。一日でも早く患者さんが安心できる看護ができるように一生懸命頑張っていくのでよろしくお願いいたします。



糸永 優子 (メディカルアシスタント)

一生懸命頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。



受付



受付 青木 桜

**不妊の検査・治療に
関する本の貸し出し
始めました!**

受付にて貸し出ししております。
ぜひ! ご覧ください!

**院内掲示
見てますか!?**

診療時間の変更や、先生の不在
日など、掲示しています。
来院時には、チェックしてください。

**診療時間外は
施錠します**

診療時間・教室時以外は、
駐車場の施錠を行っております。



**診療予約の電話は
指定されている
時間をお願いします**

診察についての予約は、
月・水・金 14:00~17:00
の間をお願いします。

**助成金の書類提出は
早めをお願いします**

申請分のお支払いを確認後に、助
成金の書類を作成します。お渡
しまでに2週間程時間がかかりま
すので早めの提出をお願い致し
ます。

情報処理室

情報処理室 安部 里美

2017年 年報を発行しました

当院では、年に1度、開院からの診療データをまとめた年報を発行しています。

2018年は、2017年までのデータを集計した2017年 年報を発行しました。

年報に掲載するデータ以外にも、情報処理室では様々なデータを集計しています。

今回はその中よりいくつかご紹介したいと思います。



女性患者の年齢等の 1993年と2016年の比較

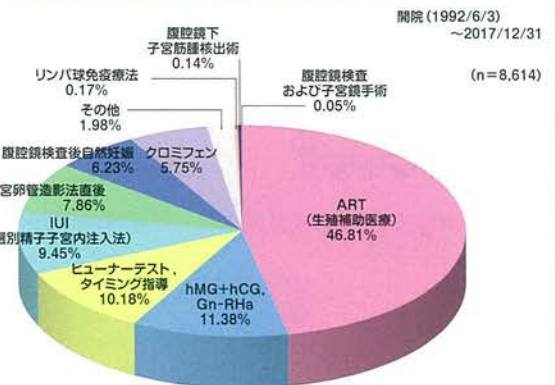
	1993年 1993/1/1~1993/12/31		2016年 2016/1/1~2016/12/31		
	人数	平均	人数	平均	
結婚年齢	572人	25.9±3.64(歳)	480人	30.8±4.76(歳)	**
初診時年齢	600人	30.1±3.99(歳)	483人	34.3±4.66(歳)	**
初診時不妊期間	558人	3年6ヵ月	474人	1年11ヵ月	**
妊娠時年齢	250人	29.8±3.57(歳)	434人	34.5±4.17(歳)	**
妊娠時不妊期間	250人	2年8ヵ月	434人	2年1ヵ月	**
妊娠時治療期間	250人	7ヵ月	434人	10ヵ月	**
単胎満期産の 出生児体重	137児	3179.1±413.64(g)	249児	3141.0±351.47(g)	** P<0.01

当院の患者さんの初診時の年齢等を開院当初と比較すると、2016年は初診時年齢が1993年と比べて4歳上昇しています。

初診時の不妊期間は短くなっていることから、近年では不妊についてメディアでも取り上げられることが増え、以前よりも不妊治療が身近なものになってきたからではないかと考えられます。

妊娠した患者さんの妊娠に有効であった治療の内訳では、生殖補助医療が半数近くを占めています。

妊娠に至った主たる有効治療



生殖補助医療による妊娠の内訳をみると、凍結融解胚移植による妊娠が年々増えてきています。

これは全国的な流れで、日本産科婦人科学会の報告では、2016年に体外受精によって生まれた赤ちゃんのうち、約83%が凍結融解胚移植によって生まれています。

開院から現在までの生殖補助医療による妊娠の内訳





心理相談室



自分でできるリラクゼーション

心理相談室 稗田 真由美

自律訓練法とは

リラックス状態をイメージしながら心と身体を自己調整していく方法です。ドイツの精神科医が生み出し、日本にも導入され、医療に限らずスポーツなど様々な分野でも取り入れられています。

不安や不眠で悩まされている方だけでなく、日頃のストレスを緩和するためにもとても有効です。自律神経系のバランスを整え、自分でコントロールする力を引き出したり、取り戻したりすることもあります。

効果

- 心身に蓄積された疲労の回復
- イライラを抑える、気持ちが穏やかになる
- 自己を統制する力が身に付き、衝動的な行動が少なくなる
- 集中力が増し、勉強や仕事の能率が上がる
- 身体的、精神的な苦痛が和らぎ、寝つきが良くなる



方法

①最初に呼吸を整えましょう

※正しい呼吸法とは…身体の力を抜いたまま、おへその下付近(丹田)に手を当て、長くゆっくり息を吐きます。お腹の中の空気を全て吐き切るイメージをしましょう。吐き切って、お腹が限界まで凹んだら、次は下腹部に空気を入れるイメージで、鼻から息を吸っていきます。十分に息を吸い込んだら、3秒ほど息を止めて、再び息を吐いていきます。

②言葉(言語公式)とイメージ(受動的集中)を重ね合わせることで、自律神経系のバランスを自己コントロールしていく方法です。暗示効果を高める為に、「言語公式」を頭の中でゆっくり繰り返しながら、身体の声に耳を傾け、ありのままを感じてください。仰向けになったり楽な体制で行ってください。

呼吸のリズムに合わせるようにして、6つの言語公式をゆっくり唱えます。

- 背景公式：「気持ちが落ち着いている」と繰り返す
- 第一公式：手足が重たい
- 第二公式：手足が温かい
- 第三公式：心臓が静かに脈打っている
- 第四公式：楽に呼吸ができる
- 第五公式：お腹のあたりが温かい
- 第六公式：額が涼しい

右手→左手→右足→左足と一つずつゆっくりイメージしてください。背景公式から第一公式と第二公式を中心にしても良いです。



以上の過程を2～3回に分けて、10分間ほど行ってください。慣れてくると「力が抜ける」「温かくなる」という感覚をすぐに起こせるようになります。全身の筋肉が緩むと同時に、心の落ち着きを得ることもできます。

③最後にリセットをしましょう。

深呼吸や背伸び、屈伸を数回おこないます。不眠の方は、そのまま寝ても構いません。

日常生活のストレスの解消法として、お風呂上りや寝る前のゆっくりした時間、または不安や緊張が高くなっているなど感じたら一度試してみてください。



厨 房



厨房 矢野・油野

今回は、ルカMENUからスタッフにも好評なメニューを紹介します。

生姜で身体を温め、ネギやにんにくなどの香味野菜に含まれるアリシンも、血行促進に役立ちます。レシピに取り入れ、食卓に並べてみてはいかがでしょうか。

かんたんレシピ

茄子とささみの南蛮ソースかけ

【材料(1人分)】

- ・茄子 …………… 5切れ
- ・鶏ささみ …………… 1本
- ・インゲン …………… 1~2本

《南蛮ソース》

- ・砂糖 …………… 小さじ2
- ・酢 …………… 60cc
- ・濃口醤油 …………… 60cc
- A {
 - ・生姜 …………… ½ かけ
 - ・白ネギ …………… 5cm位
 - ・にんにく …………… ½ かけ
 - ・唐辛子 …………… お好みで

★余ったら、棒棒鶏(バンバンジー)などのたれとしても使えます♪

作り方

① 南蛮ソースを作る

A をみじん切りにし、ボールに調味料を入れ、混ぜ合わせる。→馴染ませておく。

② 材料を切る

インゲンは斜めに切り、茄子は乱切りにする。



③ 茹でる・揚げる

ささみを茹でる。
(少量の酒を入れるとやわらかく仕上がる)
インゲン → 茄子の順に揚げる。

④ 盛り付け

茹で上がったささみは手で裂く。
お皿にささみ、茄子を入れ、その上にインゲンをのせる。

⑤ 南蛮ソースをかければ出来上がり!!

ここでひとつ



コーヒーはカフェインが含まれています。そのカフェインに対して良くない印象があり、実際に気にされている方も多いと思います。ですが、カフェインにはリラックスとともに、頭をすっきりリフレッシュさせる効果があります。好まない方は無理に飲まなくてよいですが、好きなのに我慢している方は、飲めなくてストレスになるより、一日1杯位飲んで心を落ち着かせるのもよいのかもしれない。

(参考文献：マンガでわかる 栄養学 足立香代子監修)

完成!



身体を内側から温めたい時は、生姜湯がオススメです
(ジンゲロールに熱を加えてショウガオールに変化)

セント・ルカ産婦人科 アルバム

行事編

忘年会 2017年12月9日(土)

日ごろお世話になっている先生方や業者さんをお招きして、食事をしながら職員の出し物も楽しんでもらいました。

レク係さん
お疲れ様
でした!



新人



受付・情報処理室・厨房



院長賞・看護部 ヤッター!

二次会ではカラオケ、
ビンゴゲームをして
盛り上がりました~!



研究室



クリスマス会 2017年12月25日(木)



患者さんも参加して、聖書の学びや生演奏と歌とクリスマスソングをみんなで合唱して、心休まるひと時を過ごしました。

そのあと厨房さん手作りのフルーツケーキ、シュトーレン、リースパンなどを美味しく頂きました。



日本福音ルーテル大分教会
野村 陽一 牧師先生



賛美 池畑 和希 さん
奏楽 中畑 実里 さん



患者さんを囲んでクリスマス茶話会



お花見

2018年3月31日(土) 平和市民公園

今年は、桜満開できれいでしたね～
お肉がさらに美味しく感じました！



新人さんの出し物、メシロンドンダンス
可愛いかったよ～な気がする(^.^)



職員旅行・台湾

2018年4月

台湾に社員旅行に行ってきました!!
台湾の歴史や、食、風土に触れ、職員一同リフレッシュでき、日々の職務に一意専心していきたいです。



九份



中正紀念堂

職員旅行・熊本1班

2018年4月



球磨川かわくだり

ラフティングがサイコーに楽しくて、みんなの
きずなが一層深まりました!!



苺ジャム作りしました!



職員旅行・熊本2班

2018年7月

美味しい豪華な料理と温泉でゆっくり
とでき、とても癒されました!



避難訓練

2018年5月15日(火)・11月21日(火)



厨房から 火災発生!



初期消火できませんでした！
早く避難誘導をしてください。



非常階段から 手術後の患者さんを避難



消火訓練も
行いました。
水圧がすごいので
一人では
持てません！



セント・ルカ産婦人科 開院記念

2018年6月3日(日)

開院26周年を迎えました！

これからも患者さんに安心して通院、治療して頂ける様なチーム医療に邁進していきたいと思えます。



開院から2017年12月までの成績

外来患者数	27,303人
男性	10,073人
女性	17,230人
拳児希望女性数	13,354人

妊娠件数	8,614件
妊娠に至らなかった女性	6,139人
患者あたりの妊娠率	54.0%
	$[(13,354 - 6,139) / 13,354]$

※治療を途中で諦めた女性	5,945人
実妊娠率	97.4%

(諦めざるをえなかった人1,504人、いつの間にか諦めた人4,441人を除く)
 $[(13,354 - 6,139) / (13,354 - 5,945)]$

2018年を振り返って

01.04	新年会(セント・ルカ産婦人科多目的室)	04.02	新職員 吉良美咲(看護部)、日野裕子(看護部)
01.04	新職員 糸永優子(メディカルアシスタント)、佐藤昭江(看護部)	04.03	安全管理研修:ラボ内管理について(担当:研究室・培養室)
01.13	第108回 新患教室 参加者69名 参加(後藤彰、平田、川内、青木、大城、橋、熊迫、糸永、秦岡、佐藤、宮田、渡邊、戸高、松土、稗田)	04.07	第110回 新患教室 参加者34名 参加(瀬戸口、平田、川内、濱、大城、大津、糸永、日野、吉良、佐藤、戸高、越光、稗田)
01.16	第224回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院	04.11	PGT-Aに関する中間評価検討会(東京) 参加(神田、城戸、院長)
01.20	第13回 治療終結を決定した元患者さんのお話 参加者7名	04.12	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加(院長)
01.20	遺伝カウンセリング・ロールプレイ研修会(GCRP2017)(熊本) 参加(院長)	04.13	第47回 大分市医師会産婦人科一内分泌・不妊・代謝一懇話会(大分) 参加(後藤彰、瀬戸口、安部、矢野、平田、川内、青木、濱、大城、後藤厚、橋、神田、城戸、大津、糸永、土谷、日野、吉良、宮田、渡邊、北田、亀井、松元、手島、松土、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長)
01.21	大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会臨時総会(大分) 参加(院長)		
01.21	日本卵子学会編集委員会(東京) 参加(大津)		
01.23	日本新薬 社外講師招聘勉強会(大分) 参加(院長) 講師:「不妊症の現状と子宮内膜症について」(院長)		
01.27	第245回 体外受精教室 参加者50名 参加(後藤彰、平田、濱、橋、神田、後藤香、長木、糸永、秦岡、佐藤、宮田、渡邊、坂本、稗田)	04.14	第14回 九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加(青木、越光、河邊、院長) 発表:「不妊患者における子宮筋腫核出術および子宮腺筋症核出術後の癒着についての検討」(院長)
01.28	平成29年度 大分県医師会母体保護法指定医師研修会(大分) 参加(院長)	04.15	第75回 九州・沖縄生殖医学会(福岡) 参加(青木、神田、後藤香、長木、越光、河邊、院長) 発表:「大分県助成金制度について 患者への聞き取り調査」(青木桜) 「生殖補助医療(ART)後の流産周期で卵黄嚢及び胎児心拍の有無と得られた流産絨毛のメチル化との関係」(神田晶子) 「精子形態が胚発育タイムラプス所見に及ぼす影響 - Kruger's strict criteria を用いて -」(後藤香里) 「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸) 「4種のプロゲステロン製剤を使用した患者への調査」(越光直子)
02.01	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加(院長)		
02.02	第12回 大分女性医学フォーラム(大分) 参加(河邊)		
02.03	第6回 第11期オリーブの会 参加者4名		
02.04	JISART 第1回 PGT-A 会議(福岡) 参加(院長)		
02.10	第71回 「赤ちゃん～今ならきくと授かる～」講座(トキハ会館) 参加者79名 講師(越名(受付)、後藤裕(看護部)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生) 参加(後藤彰、瀬戸口、平田、越名、橋、城戸、秦岡、土谷、宮田、渡邊、坂本、川村、後藤裕)	04.17	第227回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
02.11	第246回 体外受精教室 参加者36名 参加(後藤彰、平田、越名、橋、神田、後藤香、糸永、秦岡、佐藤、宮田、松土)	04.21	第248回 体外受精教室 参加者52名 参加(平田、青木、神田、後藤香、大津、糸永、日野、吉良、宮田、坂本)
02.13	第225回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院	04.21	日本卵子学会 平成30年度 第1回倫理講習会(東京) 参加(神田)
02.17	第9回 遺伝医学セミナー入門コース(愛知) 参加(院長)	04.22	日本卵子学会 平成30年度 生殖補助医療管理胚培養士資格認定制度資格更新審査(東京) 参加(大津)
02.17	第62回 JISART 理事会(東京) 参加(院長)	04.24	職員旅行(台湾・台北班) 参加(後藤彰、瀬戸口、安部、北田、足立、手島、河邊、院長)
02.18	JISART 2018年度 施設認定審査説明会・審査員研修(東京) 参加(松土)	04.24	職員旅行(熊本1班) 参加(油野、平田、渡邊、坂本、越光、後藤裕)
02.24	日本生殖心理学会年次総会(東京) 参加(院長)	04.28	第72回 「赤ちゃん～今ならきくと授かる～」講座(トキハ会館) 参加者87名 講師(越名(受付)、川村(看護部)、稗田(臨床心理士)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生) 参加(後藤彰、瀬戸口、平田、越名、後藤厚、長木、糸永、土谷、吉良、佐藤、坂本、川村、後藤裕、稗田)
02.25	第15回 日本生殖心理学会・学術集会(東京) 参加(城戸、手島、後藤裕、稗田、院長) 座長:教育講演「がん・生殖医療とサイコソーシャルケア(心理社会支援)」(院長) 発表:「不妊治療終結における患者サポートに関する検討～「ご夫婦2人の人生を選択した、元患者さんのお話」を開催して～」(手島しおり) 「大学生と初診患者における生殖知識と健康意識についての比較と不妊講義の学習効果」(稗田真由美)		
02.27	第125回 大分県周産期研究会(大分) 参加(後藤彰、瀬戸口、安部、油野、平田、川内、青木、濱、大城、越名、橋、神田、長木、糸永、秦岡、土谷、宮田、渡邊、赤嶺、坂本、松元、手島、松土、越光、稗田、河邊、院長)	05.07	新職員 奈みのり(看護部)
02.28	株式会社ジネコ フリーマガジン「ジネコ」夏号(Vol.38)取材	05.07	平成30年度 大分大学医学部医学科第6年次生「産科婦人科」学外臨床実習 豊田薫さん(～5月19日まで)
03.02	新職員 池田久美(看護部)	05.08	第228回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
03.03	第71回 ガーネットサークル OG 1名、参加者6名	05.12	第70回 日本産科婦人科学会学術講演会(宮城) 参加(院長)
03.03	日本卵子学会 平成29年度 第7回理事会(東京) 参加(院長)	05.14	新職員 廣瀬尚美(受付)
03.10	第109回 新患教室 参加者56名 参加(後藤彰、平田、川内、濱、大城、橋、熊迫、糸永、宮田、渡邊、戸高、松土、稗田)	05.15	院内全体研修:遊戯訓練(担当:教育・推進委員)
03.13	第226回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院	05.15	第28回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員長:野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) 倫理委員:上野徳美先生(大分大学名誉教授)、緒方俊一先生 (わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 院長)、河野浩先生(河野・千野法律事務所 弁護士)、後藤裕子(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生(別府平和園園長)(五十音順)
03.15	平成29年度 第3回 大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会研修会・第27回 大分産婦人科悪性腫瘍研究会(大分) 参加(河邊、院長) 発表:「がん患者の妊孕性温存について一当院の経験一」(院長)	05.17	大分県立看護科学大学(大分) 講義 参加(後藤彰、瀬戸口、平田、後藤厚、糸永、秦、吉良、佐藤、宮田、渡邊) 講義:「不妊症講座」(院長)
03.16	日本受精着床学会 平成29年度 第3回 常務理事会(東京) 参加(院長)	05.19	第249回 体外受精教室 参加者54名 参加(瀬戸口、廣瀬、平田、濱、後藤厚、橋、神田、後藤香、糸永、秦、吉良、宮田、渡邊、手島、稗田)
03.17	日本生殖発生医学会役員会(東京) 参加(院長)	05.26	第8回 第11期オリーブの会 参加者3名
03.18	日本生殖発生医学会 第13回 学術集会(東京) 参加(神田、長木、院長) 座長:特別講演3「PGD/PGSの現状と展望」(院長) 発表:「生殖補助医療(ART)後の流産周期で卵黄嚢及び胎児心拍の有無と得られた流産絨毛のメチル化との関係」(神田晶子) 「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸)	05.26	第59回 日本卵子学会学術集会(埼玉) 参加(神田、後藤香、長木、院長) 座長:一般演題「培養液」(院長) 発表:「生殖補助医療(ART)後の流産周期で卵黄嚢及び胎児心拍の有無と得られた流産絨毛のメチル化との関係」(神田晶子) 「Kruger's strict criteria を用いた精子正常形態率が胚発育へ及ぼす影響」(後藤香里) 「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸)
03.20	診療報酬・介護報酬点数改訂に伴う県下一斉説明会(大分) 参加(平田、川内、青木、濱、越名)	05.26	平成30年度 日本卵子学会 第1回理事会(埼玉) 参加(院長)
03.24	第7回 第11期オリーブの会 参加者6名	05.26	日本生殖心理学会 2018年度(第12期) 生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(坂本)
03.24	日本 A-PART 理事会(東京) 参加(院長)	05.27	日本卵子学会 第18回培地開発委員会(埼玉) 参加(院長)
03.25	日本 A-PART 学術講演会2018(東京) 参加(熊迫、坂本、院長) 講演:「日本 A-PART 臨床研究年次報告」(院長) 「日本 A-PART の歴史を振り返って ～加藤修先生を偲んで～」(院長) 発表:「詳細な精子形態評価に着目した体外受精の受精予測とレスキュー ICSI の有用性についての検討」(熊迫陽子) 「流産経験のある夫婦の会について」(坂本順子)	05.29	マネジメントレビュー
03.31	第247回 体外受精教室 参加者60名 参加(後藤彰、平田、大城、糸永、佐藤、神田、松土、稗田)	05.29	院内全体研修:接遇(担当:受付)
03.31	セント・ルカ産婦人科 & メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)	05.29	第5回 里親・養子縁組の説明会～治療を経て里親・縁組をされた方のお話～
04.01	日本生殖心理学会 生殖医療相談士認定(受付:青木桜)		

05.30	株式会社ジネコフリーマガジン「ジネコ」秋号(Vol.39)取材	07.02	34th Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology (Barcelona) 参加(熊迫、後藤裕、事務長、院長)
06.01	第1回 がん・生殖医療フォーラム大分(全労済ソレイユ) 参加(瀬戸口、安部、川内、青木、瀧、越名、小池、長木、熊迫、大津、坂本、越光、後藤裕、河邊、院長) 講演:「がん患者の妊孕性温存の歴史と生殖補助医療(ART)の実践」(院長)	07.04	大分県栄養士会主催 野菜ソムリエの野菜料理教室(大分) 参加(矢野)
06.02	JISART 非配偶者間ガイドライン改定検討会(長崎) 参加(院長)	07.07	大分県栄養士会主催 平成30年度 生涯教育研修会(大分) 参加(油野)
06.02	第63回 JISART 理事会(長崎) 参加(院長)	07.10	院内感染研修: HIV感染症について(担当:看護部)
06.02	第11回 JISART 医療事務教育セミナー(長崎) 参加(瀧)	07.11	AMED 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 司原班 平成30年度 班会議(東京) 参加(院長)
06.02	第11回 JISART ラボ教育セミナー(長崎) 参加(城戸)	07.13	第240回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(甲斐、河邊)
06.02	第15回 JISART 看護教育セミナー(長崎) 参加(坂本)	07.14	第112回 新患教室 参加者59名 参加(瀬戸口、平田、川内、瀧、小池、秦、吉良、糸永、渡邊、松土、稗田)
06.03	第16回 JISART シンポジウム(長崎) 参加(瀧、城戸、坂本、院長) 座長:教育講演Ⅱ「ARTにおける遺伝カウンセリング」(院長)	07.21	第72回 ガーネットサークル OG 1名、参加者4名
06.07	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加(院長) 発表:「テーマ:不妊症」(院長)	07.21	日本生殖心理学会 2018年度(第12期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(坂本)
06.08	第239回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(河邊)	07.22	大分県栄養士会主催 平成30年度 生涯教育研修会(大分) 参加(油野)
06.09	第111回 新患教室 参加者81名 参加(廣瀬、川内、大城、小池、糸永、秦、吉良、宮田、越光、稗田)	07.25	日本受精着床学会 平成30年度 常務理事会(千葉) 参加(院長)
06.10	第25回 セント・ルカセミナー(全労済ソレイユ) 講演1:「今、改めて出生前診断を考える」 吉村泰典先生(内閣官房参与/慶應義塾大学 名誉教授) 座長:宮川勇生先生(大分大学 名誉教授) 講演2:「生殖医療の課題と日本産科婦人科学会の取り組み」 司原稔先生(徳島大学大学院医歯薬学研究所産科婦人科学分野 教授) 座長:楠原久司先生(大分大学医学部産科婦人科学講座 教授) ランチョンセミナー1:「PGD 普及のためには何が必要か」 田中温先生(セントマザー産婦人科医院 院長) 座長:竹内一浩先生(竹内レディースクリニック 院長) ランチョンセミナー2:「PGTの歴史、現状、課題について」 竹内一浩先生(竹内レディースクリニック 院長) 座長:田中温先生(セントマザー産婦人科医院 院長) 講演3:「PGT-Aをめぐる倫理 ……JISART 倫理委員の経験を踏まえて」 金城清子先生(元龍谷大学法科大学院教授) 座長:吉村泰典先生(内閣官房参与/慶應義塾大学 名誉教授) 講演4:「解析施設からみた PGT-A の問題点と近未来展望」 倉橋浩樹先生(藤田医科大学総合医学研究所 分子遺伝学研究部門 教授) 座長:河野康志先生(大分大学医学部産科婦人科学講座 准教授) 総合討論座長:斎藤伸道先生	07.26	第36回 日本受精着床学会総会・学術講演会(千葉) 参加(青木、後藤裕、長木、大津、越光、院長) 座長:特別講演2「生殖医療における遺伝カウンセリング」(院長) 一般口演15「着床前診断」(大津英子) ランチョンセミナー1-2:「ヒト胚の動的変化時間と染色体数異常(Aneuploid embryos)の関係」(院長) 発表:「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(青木桜) 「精子正常形態率が胚発育タイムラプス所見へ及ぼす影響」(後藤香里) 「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸) 「4種のプロゲステロン膈剤を使用した患者への調査」(越光直子)
06.15	日本アンドロロジー学会 第37回学術大会(兵庫) 参加(神田、熊迫、院長) 座長:一般演題「不妊症・ART②」(院長) 発表:「精子のメチル化異常と流産組織のメチル化異常の関係」(神田晶子) 「詳細な精子形態評価に着目した体外受精の受精予測とレスキュー(CSI)の有用性についての検討」(熊迫陽子)	07.27	日本受精着床学会 平成30年度 評議員会(千葉) 参加(院長)
06.17	JISART 施設認定審査 審査員(稗田)	07.28	第251回 体外受精教室 参加者73名 参加(瀬戸口、平田、青木、神田、後藤裕、糸永、秦、吉良、渡邊、宮田、坂本、稗田)
06.19	第11回 PGT-Aに関する小委員会(東京) 参加(院長)	08.02	第58回 日本産科婦人科内視鏡学会(島根) 参加(院長)
06.22	日本受精着床学会 平成30年度 第1回常務理事会(東京) 参加(院長)	08.07	林克彦先生講演会(福岡) 参加(小池、神田、院長)
06.23	第250回 体外受精教室 参加者76名 参加(後藤裕、平田、越名、神田、後藤裕、糸永、秦、吉良、渡邊、足立、松元、稗田)	08.11	第113回 新患教室 参加者45名 参加(瀬戸口、平田、川内、瀧、城戸、糸永、宮田、越光、稗田)
06.23	日本生殖心理学会 2018年度(第12期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(坂本)	08.18	第252回 体外受精教室 参加者36名 参加(後藤裕、平田、瀧、神田、後藤裕、糸永、秦、吉良、宮田、手島、稗田)
06.24	第6回 大分性教育セミナー「大切にしよう僕と私の性と生～ネット世代に向けて～」(トキハ会館) 参加(後藤裕、瀬戸口、安部、油野、平田、川内、青木、瀧、大城、越名、後藤厚、橋、小池、神田、後藤裕、糸永、土谷、秦、吉良、戸高、足立、手島、松土、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長) 講演1:「セクシャル・デバイス・ネットワーク (sexual device network)～ネット・スマホのリスク～」 佐々木玄先生(児童養護施設エス・オー・エスコどもの村 自立支援コーディネーター) 座長:貞永明美先生(貞永産婦人科医院 院長) 講演2:「子どもたちの性と生を豊かに育む ～性教育における大人の課題と子どもへ伝えたい事～」 中井良次先生(児童養護施設迎々園 統括主任) 座長:宮川勇生先生(大分大学 名誉教授)	08.21	院内全体研修:里親制度の説明(担当:心理専門相談室)
06.26	第126回 大分県周産期研究会(大分) 参加(瀬戸口、安部、油野、平田、青木、瀧、大城、越名、後藤厚、橋、神田、城戸、長木、熊迫、大津、糸永、土谷、秦、吉良、宮田、渡邊、北田、坂本、松元、手島、松土、越光、稗田、河邊、院長) 発表:「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(越名久美) 「がん患者の妊孕性温存治療 当院の経験」(熊迫陽子)	08.25	第73回 『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座(トキハ会館) 参加者44名 講師(越名(受付)、川村(看護部)、稗田(臨床心理士)、院長、わざたかがりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生) 参加(後藤裕、瀬戸口、平田、越名、橋、糸永、土谷、吉良、川村、後藤裕、稗田)
06.26	第15回 大分県母性衛生学会学術集会 第1回実行委員会(大分) 参加(後藤裕)	08.25	第25回 臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加(城戸、大津)
06.29	平成30年度 日本卵子学会 第2回理事会、定時総会(東京) 参加(院長)	08.25	日本生殖心理学会 2018年度(第12期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(坂本)
06.30	黄体補充薬の患者使用感に関する座談会(大阪) 参加(越光)	08.26	日本生殖医学会 2018(平成30)年度 第1回生殖医療従事者講習会(大阪) 参加(甲斐、院長)
07.01	職員旅行(熊本2班) 参加(矢野、大津、糸永、戸高、松元)	08.30	大分県栄養士会主催 平成30年度 地区別研修会(別府) 参加(油野)
		09.01	第1回 第12期オリープの会 参加者3名
		09.01	第64回 JISART 理事会(東京) 参加(院長)
		09.01	平成30年度 日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会(東京) 参加(河邊)
		09.05	大分県栄養士会主催 野菜ソムリエの野菜料理教室(大分) 参加(矢野)
		09.06	第63回 日本生殖医学会学術講演会・総会(北海道→北海道胆振東部地震により中止となり、WEB開催へ) 参加(青木、神田、熊迫、越光、河邊、院長) ランチョンセミナー2:「子宮内胎性不妊患者の取り扱い」 当院の試み(院長) 発表:「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(青木桜) 「流産組織のメチル化異常と精子のメチル化異常、および卵黄嚢の有無との関係」(神田晶子) 「シングルステップメディウムを用いたヒト胚のアミノ酸代謝の検討」(熊迫陽子) 「4種のプロゲステロン膈剤を使用した患者への調査」(越光直子)
		09.08	第253回 体外受精教室 参加者58名 参加(瀬戸口、平田、越名、小池、神田、後藤裕、糸永、吉良、宮田、戸高)
		09.09	第16回 日本生殖看護学会学術集会(福岡) 参加(手島、川村、院長) 講演:ランチョンセミナー「生殖医療医が看護師に希望すること 知っておいて欲しいこと」(院長) 座長:「一般演題(口演)」(川村智恵)
		09.10	株式会社ジネコフリーマガジン「ジネコ」冬号(Vol.40)取材
		09.11	第229回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
		09.15	第114回 新患教室 参加者68名 参加(後藤裕、平田、川内、瀧、大津、糸永、宮田、足立、稗田)
		09.18	安全管理研修:ラボ業務の中での安全管理について(担当:研究室・培養室)
		09.28	第241回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(河邊、院長)
		09.29	第25回 出生前診断研究会幹事会(長崎) 参加(院長)

09.29	第25回 出生前診断研究会学術集会(長崎) 参加(院長)	11.24	第33回 日本生殖免疫学会総会・学術集会(東京) 参加(後藤香)
09.29	大分県栄養士会主催 平成30年度 生涯教育研修会(大分) 参加(油野)		発表:「Epidermal Growth Factor Receptor を介した 脱落膜子宮内膜間質細胞の細胞機能調節」(後藤香里)
10.01	新職員 関洋美(受付)	11.26	第6回 里親・養子縁組の説明会～治療を経て里親・縁組をされた方のお話～
10.03	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加(院長)	11.27	マネジメントレビュー
10.08	American Society for Reproductive Medicine 2018 Scientific Congress & Expo (Denver) 参加(足立、松元、事務長、院長)	11.27	第242回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(河邊)
	発表:「The new embryo culture medium based on the amino acid concentration of human oviductal fluid increase the embryo development ability : prospective randomized trial」(院長)	11.30	第243回 大分市医師会産婦人科臨床検討会学術講演会(大分) 参加(安部、油野、濱、越名、神田、後藤香、渡邊、越光、 後藤裕、甲斐、河邊、院長)
10.11	日本人類遺伝学会 第63回大会(神奈川) 参加(城戸、大津、院長)	12.01	第116回 新患教室 参加者64名 参加(後藤彩、関、青木、小池、糸永、恵藤、吉良、宮田、渡邊、 戸高、稗田)
10.12	日本卵子学会 平成30年度 第3回理事会(東京) 参加(院長)	12.01	平成30年度 日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会(東京) 参加(河邊)
10.13	第115回 新患教室 参加者42名 参加(後藤彩、関、平田、青木、長木、糸永、吉良、戸高、坂本、松土)	12.05	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加(院長)
10.13	第2回 第12期オリブの会 参加者5名	12.08	日本生殖心理学会 2018年度(第12期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(坂本)
10.14	JISART 施設認定審査 オブザーバー(松土)	12.09	日本生殖医学会 2018(平成30)年度 第3回 生殖医療従事者講習会(東京) 参加(甲斐、院長)
10.14	第15回 大分県母性衛生学会役員会(大分) 参加(後藤裕、院長)	12.10	株式会社ジネコ フリーマガジン「ジネコ」巻9(Vol.41)取材
10.14	第15回 大分県母性衛生学会総会・学術集会(大分) 参加(青木、越名、土谷、吉良、北田、坂本、川村、越光、後藤裕、 稗田、河邊、院長)	12.11	院内感染研修: インフルエンザとノロウイルス(担当:看護部)
	発表:「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(越名久美)	12.11	第232回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
10.16	第230回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院	12.14	第4回 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会(東京) 参加(院長)
10.16	院内全体研修: 心臓蘇生法(担当:看護部)	12.14	第23回 日本生殖内分分泌学会学術集会(福岡) 参加(後藤香)
10.20	第254回 体外受精教室 参加者70名 参加(後藤彩、平田、濱、神田、後藤香、糸永、吉良、宮田、北田、稗田)		発表:「子宮内膜間質細胞の脱落膜化における Epidermal Growth Factor Receptor を介した細胞機能調節」(後藤香里)
10.20	日本生殖心理学会 2018年度(第12期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加(坂本)		【学術奨励賞受賞】
10.23	第127回 大分県周産期研究会(大分) 参加(河邊)	12.15	遺伝カウンセリング・ロールプレイ研修会(東京) 参加(院長)
10.26	第48回 大分市医師会産婦人科一内分泌・不妊・代謝一懇話会(大分) 参加(後藤彩、瀬戸口、安部、矢野、平田、青木、越名、後藤厚、橋、 小池、城戸、後藤香、長木、熊迫、大津、糸永、土谷、吉良、 宮田、戸高、北田、坂本、足立、松元、手島、松土、越光、 後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長)	12.16	第2回 JAPCO 会議(東京) 参加(城戸、大津、院長)
	「妊孕能温存手術と生殖補助医療～妊孕能に配慮した術前薬物療法～」 (東邦大学医学部産科婦人科学講座 教授 片桐由起子先生)	12.16	第13回 PGT-Aに関する小委員会(東京) 参加(院長)
10.30	第12回 PGT-Aに関する小委員会(東京) 参加(院長)	12.16	日本産科婦人科学会倫理委員会 公開シンポジウム 「着床前診断—PGT-A 特別臨床研究の概要と今後の展望—」(東京) 参加(城戸、大津、院長)
10.31	バイエル薬品株式会社勉強会(大分) 参加(院長) 講演:「不妊症の現状」(院長)	12.20	忘年会
		12.22	クリスマス会
		12.23	第256回 体外受精教室 参加者96名 参加(後藤彩、関、越名、神田、後藤香、糸永、恵藤、吉良、松土、稗田)
11.01	日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会 臨床遺伝専門医認定(院長)		著書 (院長)
11.01	新職員 恵藤玲子(看護部)、花崎真衣(看護部)		「不妊治療(含む生殖補助医療)で生まれた子どもに 病気は多くなりませんか？」
11.03	JISART フォローアップ部会相談部門第6回当事者交流会(東京) 参加(院長)		「不妊治療 Q&A—基礎理論から Decision Making に 必要なエビデンスまで—(仮題)」(医学書院) [印刷中]
11.06	院内全体研修: 避難訓練(担当: 情報処理室・厨房・心理専門相談室)		「胚培養液の進歩」[臨床婦人科産科] 第73巻第3号(医学書院) (印刷中)
11.07	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加(院長)		「着床前診断後のフォローアップ」 「網羅的着床前診断の基礎と実際(仮)」(診断と治療社) [印刷中]
11.07	大分県栄養士会主催 野菜ソムリエの野菜料理教室(大分) 参加(矢野)		「執筆予定テーマ」[卵管造影検査(HSG)にあたっての注意]
11.08	平成30年度 香川生殖内分分泌研究会(香川) 参加(院長) 講演:「生殖医療わかれの経験～胚培養、着床前診断、 ART で産まれた児の健康について～」(院長)		「異所性妊娠への対処」「不妊・不育症診療の伝承とEBM(仮称)」 (中外医学社) [執筆中]
11.10	第74回 「赤ちゃん～今ならきくと授かる～」講座(トキハ会館) 参加者66名 講師(青木(受付)、後藤裕(看護部)、稗田(臨床心理士)、院長、 わざだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生) 参加(後藤彩、瀬戸口、平田、青木、橋、糸永、土谷、吉良、戸高、 坂本、後藤裕、稗田)		論文 (院長)
11.11	JISART 施設認定審査		「The effectiveness of alcohol sclerotherapy on the ovarian endometrioma」(執筆中)
11.13	第231回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院		「Measurement of oxygen consumption rate of embryos to select the best embryo for e-SET」(執筆中)
11.15	第49回 大分市医師会医学会(大分) 参加(瀬戸口、安部、油野、関、平田、青木、濱、越名、橋、小池、 神田、長木、熊迫、大津、糸永、土谷、恵藤、吉良、渡邊、 北田、坂本、足立、手島、松土、越光、後藤裕、河邊、院長)	<大津英子>	「ヒト初期胚における多核割球の形成要因と妊孕性に関する検討」 日本受精着床学会雑誌35(1): 78-82, 2018
	発表:「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(越名久美)	<熊迫陽子>	「Strict Criteria 精子形態評価に基づく conventional IVF と 受精障害に対する rescue ICSI の臨床的有用性の検討」 日本受精着床学会雑誌35(1): 83-87, 2018
11.17	第255回 体外受精教室 参加者40名 参加(瀬戸口、関、平田、青木、神田、後藤香、糸永、恵藤、吉良、 松元、稗田)	<後藤香里>	「Prediction of the in vitro developmental competence of early-cleavage-stage human embryos with time-lapse imaging and oxygen consumption rate measurement」 Reproductive Medicine and Biology 17(3): 289-296, 2018
11.17	第73回 ガーネットサークル OG 1名、参加者4名		「Decidualization modulates a signal transduction system via protease-activated receptor-1 in endometrial stromal cells」 American Journal of Reproductive Immunology (印刷中)
11.17	大分県栄養士会主催 平成30年度 生涯教育研修会(大分) 参加(油野)	<神田晶子>	「生殖補助医療(ART)における流産絨毛のメチル化異常と 夫精子のメチル化異常の関係」 日本受精着床学会雑誌35(1): 116-120, 2018
11.18	JISART 施設認定審査 審査員(松土)	<小池恵>	「Effects of cyclophosphamide administration on the in vitro fertilization of mice」 Reproductive Medicine and Biology 17(3): 262-267, 2018
11.24	第3回 第12期オリブの会 参加者4名		
11.24	第65回 JISART 理事会(鹿児島) 参加(院長)		

妊娠報告件数
(2017.11.1～2018.10.31)
体外受精、顕微授精等
255件
*
その他(体外受精以外)
139件
計 **394件**



編集後記 2018年も学会や講座などたくさんの行事があり、忙しく過ぎていきました。年一回の新聞発行となったのでまとめるのも苦労しますが、ある患者さんからルカ新聞を見て「色々な部署のスタッフの方達の仲良く楽しんでいる姿を見たら、治療するうえで何だか安心できます」と言ってもらえました。本当に有り難い言葉で逆に励まされました。ありがとうございます。来年も頑張ろう～!(^o^)

(E・M)